巻 頭 言

『ライオンの隠れ家』は、久しぶりに最終回まで観る連続ドラマで、現実問題に考えさせられました。公式ホームページの内容を要約すると、あらすじは以下の通りです。

「市役所に勤務している兄は、両親を事故で亡くしてから、自閉スペクトラム症の弟と2人で風のような平穏な日々を過ごしていたが、ある日突然「ライオン」と名乗る男の子が兄弟の前に現れる。男の子を警察に保護してもらおうと考えるが、家出したステップファミリーの姉と推測する差出人不明のメッセージが届く。「ライオン」を家に置くことにしたが、「ライオン」の体にアザがあることに気付く…」

未成年者を家に泊めることは親の同意がない限り違法行為であるが、フィクションのため追及しないこととします。

障がいや病気のある兄弟姉妹がいる「きょうだい児」として夢を諦め大学を中退した兄、絵の才能があり自立しようと努力する弟、実母に捨てられ家出し夫からDVを受けた姉、児童養護施設育ちで養子として入った家族から愛されず妻と子に暴力をふるい続ける姉の夫、家庭に介入できず虐待された園児が亡くなってしまい後悔を抱えている兄の同僚の保育士、「ライオン」たちの偽装死を手助け、自身もDV被害者である「逃がし屋」の男性、主な登場人物からでも分かるように、今日の社会問題に切り込んだ内容であり、私たちに社会全体のあり方について問いかけるドラマでもあります。

また、『ライオンの隠れ家』というタイトルは、父親からの虐待を受けた「ライオン」と名乗る男の子を守る隠れ家を意味すると読み取っていたが、登場人物にもすべての人々にも当てはまるといえます。「そのプライドは安全ですか？」と「ライオン」を心配する弟の言葉が印象的でした。安全で守られているプライドがあると成長でき、自立もできます。いま、「安全なプライドの形成」を血のつながった家族だけに課すのではなく、社会全体に求められます。

ライオンはプライドと呼ばれる群れで集団生活を送る唯一の動物で、ライオンのプライドが必ずしも生物学的な家族で構成されているわけではないが、仲間と協力して子ライオンを育てています。一方の人間社会は、家族のことを家庭内で解決することを「当たり前」と捉えがちです。自分自身をヤングケアラーだと気付けない場合があり、助けを求めることができずに追い詰められてしまい、孤立してしまうこともあります。

全ての国民を対象とする孤独・孤立対策が世界で初めて総合的に規定された「孤独・孤立対策推進法」が2023年5月に成立し、2024年4月に施行されました。同年6月には「①孤独・孤立に至っても支援を求める声を上げやすい社会とする、②状況に合わせた切れ目のない相談支援につなげる、③見守り・交流の場や居場所を確保し、人と人との「つながり」を実感できる地域づくりを行う、④孤独・孤立対策に取り組むNPO等の活動をきめ細かく支援し、官・民・NPO等の連携を強化する」の4つの基本方針を盛り込んだ重点計画を策定しました。一方、毎日新聞（2024年12月24日付）によると、7月に実施したNTTデータ経営研究所とNTTコムリサーチの調査では、同法については79.4%が「知らない」と回答しました。年代別にみると、高年齢層ほど認知度が低く、「知っている」「聞いたことがある」との回答は、20代、30代の2割強に対し、60代は16.8%でした（20代～60代の男女1054人が回答）。法律や施策がまだまだ認知されておらず、啓発活動が不十分です。

いろいろな課題を抱えた人とその家族に必要なのは周りの理解であるが、無関心な社会において、支援を求める声を上げやすい社会にどうしたらよいか、また支援を求めない人に対して地域はどう取り組むべきか、異業種連携によるソーシャルワークへの課題は山積みといえます。

2025年3月15日

大正大学人間学研究科社会福祉学専攻専攻長

金 潔

鴨台社会福祉学論集 第33号 目次

巻頭言 金 潔

I 大正大学大学院招聘講師報告 大正大学社会福祉学会第48回大会

基調講演

異業種連携によるソーシャルワークの未来

—精神障害がある人への経済的支援を切り口にして— 青木 聖久 2

分科会

第1分科会 研究発表の場【異業種連携のソーシャルワークの実践と研究】

高齢や障害のある被疑者・被告人への弁護士と

ソーシャルワーカーの協働 三木 良子 5

精神保健福祉士が予防的観点から他業種と協業すること 和賀 未青 6

東京都練馬区における「地域共生社会の高齢者支援における

コンビニエンスストアとの協働モデルの構築」活動報告 青木 伸吾 7

第2分科会 多世代支援の地域福祉実践【各自治体・社協活動の情報を共有】

被災地に思いを馳せ…みんなの命がつながる社会にするために

～災害応援派遣をきっかけに見えた災害時の社会生活課題を地域住民に…～

..... 大竹 宏和 8

地区担当を中心とした地域づくりについて 下徳 真吾 9

文京区社会福祉協議会における多機能な居場所を中心とした

地域福祉コーディネーターの実践 金谷 翔太 10

II 特別寄稿

地域共生社会に向けた精神保健福祉の回顧と展望

～神奈川県域を中心に1970年代より実践的な研究の自分史から～

Retrospect and Prospects of Mental Health and Welfare for a Community Symbiotic Society

～From my personal history of practical research since the 1970s,

mainly in Kanagawa Prefecture～ 石川 到覚 11

III 実践報告

国分寺市における地域福祉コーディネーターが取り組むひきこもりに関する支援 …… 野村 拓夢	26
社会福祉学科にて、実務家教員が講義を実施した際のウェルビーイングの効果 …… 内山 貴之	31

IV 研究ノート

刑事事件に関与した精神障害者の支援体制の概況とその課題 …… 羽毛田幸子	37
--------------------------------------	----

V 大学院修士論文抄録 ……	46
----------------	----

VI 学部卒業研究の論題一覧

令和6年度 卒業研究論題一覧 ……	48
-------------------	----

VII 鴨台社会福祉学論集諸規程

発行要領 ……	51
投稿規程 ……	52
編集規程 ……	53
編集委員会規程 ……	54
査読規程 ……	55
査読フローチャート ……	56
査読書式 ……	57
リポジトリ規程 ……	59

VIII 大正大学社会福祉学会会則 ……	61
----------------------	----

編集後記 ……	神山 裕美 赤坂 真樹
---------	----------------